

# 創立20周年記念誌



**JCOA**  
IBARAKI

茨城県臨床整形外科医会

**茨城県臨床整形外科医会  
創立20周年記念誌**

## 目 次

1. 式辞		1
	会長 山崎雄一郎	
2. 祝辞		2
	茨城県医師会長 齋藤 浩	
	筑波大学整形外科教授 落合 直之	
3. 茨城県臨床整形外科医会創立20周年記念式典		6
記念写真		
式典	副会長 荒川 重光	
祝賀会	副会長 中村 尚	
写真の頁		
プログラム		
4. 創立20周年を迎えて		13
	初代会長 石島 弘之	
	第二代会長 大木 勲	
	第三代会長 小松崎 睦	
	第四代会長 小松 満	
	茨城県医療法人協会会長 小林 克巳	
5. 最近の活動		23
JCOA学会 in つくば	会長 山崎雄一郎	
学術部の活動	学術部会長 五味洸文雄	
資格継続のためのセラピスト研修会	副会長 荒川 重光	
OYAJI会	会員親睦部会長 吉成 尚	
6. 創立20周年に想う		37
あつという間の20年	三枝整形外科医院 三枝 憲成	
医療・医師・家庭	勝田病院 浦川 圭二	
茨城COAと共に	木村クリニック 木村 郁夫	
JCOAと私	あくつ整形外科・内科 阿久津 貴	

編集後記

会員名簿

# 記念式典

## 式辞

茨城県臨床整形外科医会 会長 山崎雄一郎

本日はお忙しい中、茨城県臨床整形外科医会の創立 20 周年記念式典にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

茨城県医師会の齊藤会長をはじめ当会が日頃からお世話になっているご来賓方々を迎えて式典が挙行出来ます事を心から感謝申し上げます。

当会が日本臨床整形外科医会（現学会）に、その茨城県支部として正式に登録して 20 年が経過しました。これまで、初代石島会長、2 代小松崎会長、3 代大木会長、4 代小松会長の 4 人の名会長がここまでの発展に尽くされてきました。本日は 4 人の歴代会長には後ほど感謝状を贈りたいと考えております。

さて、現在、整形外科を取り巻く環境は、けして良好とは言えないと思います。

それは、標榜科としての認知度不足、医療類似行為との差別化、交通事故に対する対応など様々な問題があります。これらの諸問題に対して、今後真っ向から取り組んでいきたいと考えます。更に、小児・学童検診における、先天性股関節脱臼や脊椎側弯症などの運動器検診に対する整形外科医の積極的参加、学校スポーツへの助言など、もっともっと我々の活動をひろげる努力も行っていこうと思います。

昨年発生した、東日本大震災には本日ご参加の皆さんも様々な体験をされたと思います。その際、県内の医療機関は、自らの施設の管理や患者さんの対応に追われ、更に通信インフラの障害で必要な病診連携などが上手く行えませんでした。病診連携・病病連携を更に進めていく必要性を強く感じました。

その意味も含めまして本日は、我々が日頃、お世話になっている基幹病院の整形外科の代表者の先生方を感謝の気持ちと更なる、顔の見える連携を進めるためにお呼びしました。宜しく申し上げます。

また、後半では教育講演ではなく、文化講演を企画致しました。茨城を代表する陶芸家の井上壽博先生をお招きしています。普段聞けない楽しい話が聞けるはずです。

また、式典終了後はささやかな懇親の場を設けておりますので、お時間の許す限り皆さん楽しんで行って下さい。

それでは、本日は宜しく申し上げます。

## 祝 辞

茨城県医師会長 齋藤 浩

ただ今ご紹介いただきました茨城県医師会長の齋藤でございます。人間の人生で申しますと、本日が成人式ということでございます。茨城県臨床整形外科医会成人式誠におめでとうございます。

一般的なことでございますけれども、我々医師というものは医療を提供する側でございます。立場としては患者さんを診療するという事は日常の業務でございます。一方、診療を受ける患者さんの立場からいたしますと、疾病や外傷、これに侵されました方は、非日常的な出来事でございます。同時に我々医師のサイドから見ますと、大勢の患者さんの中のひとりと対応するわけでございますが、患者さんとしては診ていただく医師というものは唯一の頼りどころとなるわけでございます。

そこで、一般的という言葉をしきりに使いますけれども、一般的には医療を施す側と受ける側との信頼関係がきちんとうまくいかなければ良好な診療は行えないということになるわけございまして、これはごくごく当たり前の現象でございます。従いまして、医師と患者とのコミュニケーションというものが非常に大切なポイントとなるんだということになるわけでありまして。

そのコミュニケーションということでございますが、私は整形外科医ではございません。外科医でございますが、臨床整形外科医会の皆様に対しまして、他の臨床科目の立場から見た感想を申し上げたいと思います。

臨床整形外科医会の先生方は、非常に特異的な診療状況に置かれていると感じております。と申しますのは、先ほど患者さんは非日常性で医療機関を訪れるということになるわけでございますけれども、運動器の疾病、外傷あるいは程度の高低はございますけれども、身体の運動器系統の傷害というものは非常に多くの人生の過程で起こるわけございまして、私自身も運動器系統の傷害がいくつかの部分をもっているわけでございます。また、加齢と同時にそれは必然的に起こってまいります。

内科系の疾患が生活習慣病というようなグループの中に分類されますけれども、運動器系統の疾病とかあるいは傷害というものは、やはり純然たる生活習慣病のジャンルの中に入るのではないかと個人的に思うわけでございます。従いまして、非日常的ではなくて、日常的な状態の患者さんが大半を占めておられるのではないかと感ずるのであります。

もう一点、先生方の周辺には他の臨床科目には見られない現象がございます。先ほど式辞の中で出てまいりましたが、医業類似行為を行う組織とか団体が先生方の周辺に存在するわけでございます。その中で、先生方は患者さんとのコミュニケーションを非常に大事にしている先生方の集合体であると我々は感ずるわけでございます。

先ほど日常性と非日常性ということでそのようなコミュニケーションのことを申し上げましたけれども、日常的に先生方の診療というものは患者さんとのコミュニケーションを大切にして、そしてきちんとした診療行為を行っている唯一の科目ではないかと思うわけでございます。従って、診療というものの模範が先生方の診療行為の中にあると言っても過言ではないと私は思うのでございます。

最後になりましたけれども、我々他の臨床科目に属しております医師の模範となるようなすばらしい日常診療を継続していただき、そしてその内容を高めていただくという事を心からお願い申し上げ、茨城県臨床整形外科医会が益々発展されます事を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたしたいと思えます。

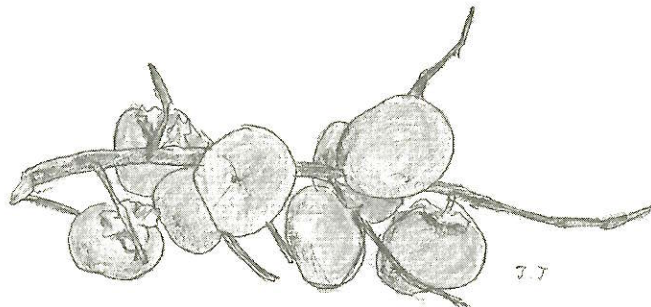
もうひとつ最後にこの場をお借りして申し上げたいことがございます。

現在三層構造の日本医師会、都道府県医師会、市郡医師会が役員改選の年回りになっておるわけでございます。この中で日本医師会の常任理事に九州ブロックから藤川先生、関東甲信越ブロックから葉梨先生がご活躍でございますが、日本臨床整形外科学会のメンバーでございまして、大変な活躍が期待されております。そしてそれをバックアップしておりますのが、我々が排出いたしました現職の原中勝征日医会長でございます。

どうぞ皆様方、この3名の活躍を継続させなければ日本医師会の活動というものの停滞ではなくて後退が考えられます。そういったことでございまして、全国の臨床整形外科医会、あるいは学会の皆様を通じまして、この3名の継続当選ということにご協力いただければ幸甚でございます。

以上を持ちまして茨城県医師会を代表してのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にめでとうございました。



2011.12.11

## 祝 辞

筑波大学医学部整形外科教授 落合 直之

筑波大学整形外科の落合でございます。本日は茨城県臨床整形外科医会の20周年記念、誠におめでとうございます。今日は出がけにちょっとこの会のことを調べてきまして、それに関連するようなことも調べまして、ちょっと因縁めいたものをいくつか見つけたので、そんなことも含めてお話ししたいと思います。

この臨床整形外科医会というのは、開業医の先生方と私的な病院の勤務の先生方の集まっている会というふうに理解しておりますけれども、茨城県の方は今年が20周年ということでありましてけれども、この親の方の日本臨床整形外科学会は昭和49年にできているんですね。今年が38年目ということでありまして、その49年というのは、私が実は大学を卒業したのが48年の9月でありまして、11月の国家試験を受けて、実際に東大の医局で医者として働き始めたのが49年の1月からなので、まさに私の医者人生と同じだけがこの臨床整形外科学会が歩んでいるのかなということをもまずひとつ感じました。

東大の方のこういう集まりは昭和46年にできているんです。杉浦先生とか岡本先生という方々が始められて、その時には東大整形開業医会という最初の名前でした。なぜか第3回が51年に行われているのですが、その時に現在の東大整形外科医会というふうに名前が変わりました。そういう経緯がありますけれども、それがまずひとつのことです。

もうひとつは、今回は山崎雄一郎先生が会長をやっておられるということで、是非来ていただきたいというふうなことを言われました。先ほどお手柔らかにというようなことがささやかれたのですが、個人情報も含めてこの場で開陳しますと、東大の方では入局すると自分の紹介文を同窓会紙に書くんですが、ちょうど58年の6月に彼は入局してきまして、その時の医局長が私だったんです。ですから右も左も知らない本当の新人のドクターの世話を私がやったという、そういう因縁がありました。

彼の書いたものを見ますと、彼は東京生まれ、日比谷高校を出ておられるんですけども、高校時代は全く勉強もしないでスポーツに専念、テニスをずっとやってたと・・・卒業の時にどうしようかなと気付いてやっと勉強をやったのかどうか知りませんが、浜松医大に入り込んで、そして又勉強するのかと思ったら一切やらないで、またテニスをずっとやっていたと・・・。ただし雑学とかそういう本をいっぱい読んだと、ただし医学の教科書は一切読まなかったみたいですが、そういうような格好で何故か東大の整形外科の門をたたいて来たわけで、おそらく運動系であれば整形外科は何とかやっていけるだろうというふうに、甘く考えて入って来られたのかもしれない。

しかし彼の目の付け所はすごくて、よく考えますとその当時の東大で一番弱いと



ころが肩ですね。ほとんど東大では手術は無かったです。東大の整形外科の肩の手術は無かったので、保存療法で全部やっていたわけですが、おそらく東大の整形外科の中の肩関節史を立ち上げたひとりが山崎先生だと思います。そういうことで整形外科に入ってから肩の専門という事で頑張ってきた。そしていつの間にか東京を離れてこの石塚地方で開業されて、頑張ってきた。今回のこの茨城県臨床整形外科医会の会長になられたということで、本当に私は彼の同系の至りであるというふうに思います。私は本当に大変喜んでおります。

整形外科というのはもちろん運動器を担当するわけですが、今非常に高齢社会になってきて、日本の活力を維持していくためには、高齢な人がいつまでもたっても年金を貰わずに働くしかないという時代がやってきたわけなので、私もこの3月で筑波大学を退職するわけですが、あとは悠々自適にしたいなと思ったのですが、どうもそうもならずにはまたずっと働くという事にならざるを得ないわけですが、その日本の活力を維持していくためにも、運動器がしっかりしていないと働けないわけなので、是非ともその第一線を担っている先生方に頑張ってもらって、地域あるいは県民、そしてまたひいては国民の健康維持を邁進していただきたいというふうに思います。

私は今たまたま日本整形外科学会の副理事長をしておりますけれども、専門医制度を担当ということでありまして、この専門医は医者のためにあるのではないんであって、これは国民のためにその医師がどういうことを専門にしているかという事を分かり易く示すという意味ですね。そういう中で安心安全な医療を提供していくと、それが本来の目的ですから、その提供していくのは誰かという、まさに第一線で頑張っておられる先生方だというふうに思いますので、専門医の集団としても是非運動器を預かる専門医の集団として、国民の健康を皆様方が維持していただきたいというふうに思うわけです。

もうひとつですね、私は茨城県の整形外科医会の会長もやっていますが、もうじきそれは返上することになりますけれども、茨城県の整形外科医会の会長の目から見て、集団会とか年に2回やるわけですが、ちょっと辛口なことを言うと臨床整形外科医会の先生方の出席が良くないのではないかと思いますので、是非コラボレーションして、きちっと茨城県の整形外科の実力を高めていくためにも集団会がございまして、皆様方には是非出席していただきたいと思います。6月に集団会がございしますが、その前に幹事会があるので、今後の茨城の整形外科医会の運営の仕方、臨床整形外科医会とどういうふうにやっていくかということも、私から提案してみたいと考えておりますので、是非よろしくお願ひします。

本日は茨城の臨床整形外科医会の創立20周年記念誠におめでとうございました。



## 記念式典

平成14年度に大木勲会長の時、JCOA茨城10周年を開催。前会長の小松満先生より20周年も開催しなければならないとの厳命を受け、平成22年より現会長山崎、副会長荒川、中村、原田らを中心に準備を開始した。

東日本大震災もあり、また会計も苦しい折、茨城県内の関係者だけで質素に開催しようということになり、一般会員からの寄付も無しにすることとなった。平成23年6月18日の総会で24年3月17日の土曜日に開催することが正式に決定し、資金集めは渡邊先生に依頼、実行委員は吉成先生、小野瀬先生を中心とした会員親睦委員会にお願いした。その後会場、司会、講演者、来賓者、懇親会でのアトラクションの手配などは、山崎会長が大いなる手腕を発揮し、なんとか23年末には記念式典、懇親会のめどもたってきて一安心であった。しかし開催日が近づくにつれてあてにしていた会員がほかの会合や医師会の集まりとぶつかり出席できないなどのトラブルもあったが何とか都合をつけ当日を迎えることとなった。

当日は荒川の開式の言葉に始まり、山崎会長の挨拶、来賓紹介に続き齊藤浩茨城県医師会長、落合直之筑波大学整形外科教授による来賓祝辞、歴代会長である石島弘之先生、小松崎睦先生、大木勲先生、小松満先生への感謝状と記念品の授与が行われた。原田副会長の閉会の言葉で記念式典は大過なく終了し記念講演会に移った。

記念講演の講師は水府葵窯の井上壽博先生で<私の選んだ逸品「馬蝗絆」名物青磁茶碗他>という演題で約一時間のお話でした。私自身焼き物にはまったくと言ってよほど知識がなく講演内容にあまり興味がなかったのですが、さすがに道を究めた人の話は素晴らしく、また歴史から丁寧に説明を受けあつという間に一時間が過ぎてしまいました。

記念撮影後、会場を移動し、午後7時より祝賀会が開催された。まず茨城県副知事山口やち急様より祝辞をいただいたのち茨城県医療法人協会会長小林克巳先生による乾杯の御発声。アトラクションは五十嵐先生とその仲間たちによるBone Breakersによるジャズ演奏で、おなじみの曲を素晴らしい演奏で楽しませていただきました。五十嵐先生はバリバリの整形外科医で、その他も現役のドクターですが、雀の涙ほどの出演料でお忙しい中快く出演いただき誠に有難うございました。演奏の進行とともにアルコールも程よくいきわたった宴たけなわのその時突然のサプライズ発生。なんと初代会長の石島先生の素晴らしいジャズの独演会が始まったのです。20年以上おつきあいのある私もこれにはビックリ。感嘆とともに会は大いに盛り上がりました。中村先生による中締めのものち会は三々五々散会。祝賀会も無事終了いたしました。

今回20周年記念式典を開催することが決まった時、震災後でしかも会の予算が殆どない時に大丈夫なのかととっても不安でした。しかし力を合わせれば何とかなるもので、会員各々が普段予想もしていなかった能力を発揮し、無事会を開催することができました。今回のことで茨城県臨床整形外科医会も自信をつけ今後の発展

に期待できると感じました。ただ惜しむらくは、一生懸命頑張る会員とまったく無関心な会員の差が広がる一方でこのギャップをうまくうずめていくことができていません。今後の大きな課題だと思います。

最後に今回の会の開催に協賛いただいた薬剤メーカー、調剤薬局、病院、器械会社、装具屋さんにご挨拶申し上げます。「有難うございました」。

(荒川記)

## 祝賀会

記念講演会に続き、部屋を変え懇親会が開催された。まず、茨城県副知事の山口やちゑ様からご挨拶をいただき、次に茨城県医療法人協会会長小林克己先生の御発声の下、全員で乾杯を行った。その後、アトラクションとしてジャズバンド「BONE BREAKERS」による演奏をバックに会食となった。このジャズバンドは、須田裕之先生（整形外科開業、テナーサックス）、泉陽子先生（公衆衛生、ピアノ）、五十嵐康美先生（整形外科勤務医、ベース）、窪谷潔先生（産科開業、ドラムス）で構成されていたが、演奏は趣味の域を超え見事なものであった。軽快な演奏をバックに各テーブルでは飲食や話が弾んでいた。途中シークレットゲスト登場となっていたが、このゲストは元茨城県臨床整形外科医会会長の石島弘之先生であった。オペ着で登場され、BONE BREAKERS をバックに数曲ジャズのスタンダードナンバーを熱唱された。多趣味の先生とは聞いていたが、フランク・シナトラばりの伸びやかな美声でスウィングされる姿には、出席者一同感嘆の声を挙げた。石島先生の歌で会場はさらに盛り上がり、お酒も進んだようであった。

このような機会でないとなかなか会えない方々が多く、懇親の場は大いに盛り上がっていたが、時間が迫り中締めとなった。

(中村記)

# 茨城県臨床整形外科医会 創立20周年記念式典



式辞を述べる山崎会長



開会は荒川副会長



齋藤浩県医師会会長



ご来賓の先生方



落合直之筑波大教授



司会はFM ばるるん社長  
小川啓子さん



受付をする実行委員

創設から現在に至るまで、当会の発展に多大なる  
貢献をされた歴代会長に感謝状と記念品を贈りました



初代 石島 弘之氏



第三代 大木 勲氏



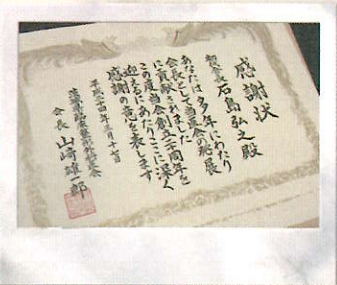
第四代 小松 満氏



記念講演会 私の選んだ逸品「馬娘絆」  
陶芸家 井上壽博氏



記念品は井上壽博氏の作品



謝辞は第二代 小松崎 睦氏



閉会は原田副会長



ゆったりと話される井上壽博氏

祝賀会のスタートは  
山口やちる副知事の祝辞



乾杯は茨城県医療法人  
協会長の小林克巳氏



リーダーのDr. 五十嵐がベース



サプライズゲストの初代会長Dr. 石島が熱唱



ドラムスはDr. 窪谷



ピアノはDr. 泉

演奏は  
BONE BREAKERS  
札幌、東京、柏、守谷  
から駆け付けてくださった  
Dr'sBand



軽快な演奏で参加者を魅了



サクソスのDr. 須田は札幌から



茨城県臨床整形外科医会  
創立20周年記念式典



元県保健福祉部長の泉先生を囲んで



閉会の挨拶をする中村副会長





**創立 2 0 周年を迎えて**

## 茨城 COA 20 周年を迎えて

初代会長 石島整形外科医院 石島 弘之

この度20周年にあたり図らずも表彰の榮譽に浴することが出来たことは、私にとりましてこの上ない喜びでございます。また日本臨床整形外科医会からも名誉会員として推挙され身の引き締まる思いであります。

早いもので茨城県臨床整形外科医会が団体として登録されて20年が過ぎてしまいました。私が水戸に戻り開業したのは昭和49年ですからもう38年になります。開業して間もない頃水戸地方整形外科集談会？に呼び出され、新人として飲み屋の2階で挨拶したのが近隣の整形の先生達とのお付き合いの始まりでした。その頃は病院勤務医も開業医も一緒に会って、レントゲンを持ち合って診断や治療法について話し合いをしていましたが、何よりも親睦を深めることが主な目的でありました。

数年たち開業が軌道に乗ってくると、開業医としての役割が勤務医とは違って地域密着型であり、医業を維持してゆくためのいろいろな問題に直面してきました。そのときに日本臨床整形外科医会の存在を知る機会がありました。しかし茨城はまだ個人として加入しており、団体としてはまともではおきませんでした。当時50名に満たなかったと記憶しています。幹事役をしておられたのは龍ヶ崎の野村先生でしたが、先生から辞退したい旨のお話があり、水戸の岡崎先生にお願いすることになりました。先生も大変忙しい方で私がお手伝いをしていましたが、本部から団体県として参加するように再三要望され、準備総会を開いて止む無く会長を引き受け、正式に県単位としての活動をするようになりました。

団体県になると関東ブロックの会議に出席したり、会費を集めて一括納入したり、本部からの伝達事項を会員に通知したり、雑用がどんどん増えてゆきます。関東地方の臨床整形外科の研修会の当番が持ち回りで茨城にも廻って来た時には、会場の設営やらブロック全員に通知することなど、慣れない仕事を県のメンバーたち総出でやったことを思い出します。千葉県が全国の学会を引き受けた際には、設立の時いろいろとご指導を受けお世話になった縁もあって茨城もお手伝いをしたことがありました。今のように役員が多勢いてそれぞれ仕事を分担してやっておらず、殆ど一人での会務仕事でしたので大したことも出来ず申し訳なかったと思いますが、なにしろ会員も少なく皆さん忙しいのに雑用をお願いすることが心苦しく思えて、一人で出来るだけ頑張るつもりでございました。日立の小松崎先生とは全国研修会で何度かご一緒しており、私の県医師会の仕事が多忙になったことで次期会長をお願いすることにしました。大木先生、小松先生、そして山崎現会長と着実にしっかりと組織作りをされ、活動内容も充実しているのを拝見して本当にうれしく思います。

整形外科は高齢化社会において今後ますます必要且つ重要な分野であり、高齢者が如何に健康で充実した生活が送られるかの原点に立って、われわれの医会が今後どのような役割を果たすべきか、模索し活動し、さらに発展してゆくことを心から祈念しています。

## 茨城 COA 20 周年を迎えて

第2代会長 日立整形外科 小松崎 睦

先日、20周年記念式典が無事に終わり、事業の一環として記念誌を発行するというので一筆参らせ候と来た。前回（10周年の時）にも記念誌を発行した記憶があったので、古い文献を紐解いてみた。第2代会長として団体県の始まりから10周年のCOA茨城の移り変わりやら、発展の思い出を書いた。当時は会員数60名位だったと思う。然し、登録はしたが、西も東も分からなかったし、お友達の集まり的で和やかだったが悲壮感はなかった。単に中央からの伝達のみが仕事のような気がする。個人的に研修会（半分以上はエクスカッションに重点が置かれた楽しい集合体のような）、学術に参加し今年の観光は何だろうという期待が強かった気がする。然し何回か参加すると全国レベルでの顔見知りが出来、時には医政、医療での参考データが耳に入り、井の中の蛙的な考えを改めさせられたようなニュースが入ったりした。

その後10～20周年までの間は、傍観者のような立場で、次第に責任逃れのような思惑で外野から見守っていた。最初のころは日整会とJCOAとの間の違いが分からず、野次馬的な観点で冷ややかな目で研修会に参加していた。整形外科人の集まりなのに全然雰囲気の違い、どちらかというとお祭り気分の方が多かったし、学問からは少し離れているようだった。最近には会に参加していないので分からないが、始めはお遊びの会と思っており、これは私の性格からしてピッチの会なのではないかと思っていた。学会というよりは息抜きの会と言ったほうが当たっているのでは無いか？

### 【最近のツブヤキ】

- ・茨城COAの未来は？会員相互の信頼と親睦、整形外科医としての未来
- ・世の中の混乱、2011の震災とその後の政治不信！『東大御用学者と京大の差』
- ・民主の不甲斐なさ！ 原発災害は人災と決め付けられた！ トンでもない首長！（東工大出身だと？ アホ面がTVに写る）傍らから横槍が入る？ 俺の管轄だと？ とたんにTVにも出してもらえなくなった人（海江田？）
- ・料亭政治の怪（密室会議）、人材不足、議員歳費の無駄、政治不信も此処まで来ると笑い事とは言えない。
- ・小沢チルドレン（三分の一は女性議員、選挙地元は何をしたか？一回でも地元で講演会を開いたことがあるのか？）の行く末（次回の選挙で全員落選）小沢は当然考えているの？ 鳩ポッポの処遇（邪魔な人間）

### 【柔整の問題】

- ・同じ土俵で（健保）仕事をしているのにやりたい放題！ 会計検査院でも不明朗な支払？と問題提起しているのに、厚労省での返事は「前向きに対処します」とい

う。前向きという言葉は「やらない」と同じであり、指導は県レベルから末端まで  
は行かず、頓挫という形である。(現場の人に聞くと、不明朗な支払とはなんですか？  
という始末！)

・人手が足りない、やる気が無い、指導のお達しが無い、やらなくてもその内に指  
導の意味合いがなくなっている？ 何処かに行ってしまうさ？ という始末！ レ  
セプトの反面調査等というものはやったことが無い。

・柔整の開業も保健所の許可が必要と思うのだが、許認可権を持っている割には一  
回も指導、監査はやらない、やるつもりも無い？ 当事者に聞くと静かにしてい  
てくれという始末。

・レセプトの酷いものになると、当院で一箇所のケガだったが、依頼したわけでも  
ないのに数箇所の部位の外傷となって請求している例を最近判った。

・やりたい放題とはこのことか？ そんなに次から次へとケガが続くわけは無いの  
に。支払い基金も不思議に思わないのか？

・自賠償にも関係してくる。損保会社は営利を目的としているので、身の危険に堪  
えてまでして此方の話には乗ってこない。

と、色々な経験をさせて貰った。

H24.7 (問題提起と解決法？ 当方には全く打つ手は無い)



## 体力の限界に挑む人びと —茨城COA 20周年に寄せて—

第3代会長 結城病院 大木 勲

今年の夏はロンドン・オリンピックで日本選手の活躍に一喜一憂する日々が続きました。特に女子選手の活躍が目立ちましたが、団体のメダル獲得が多くて過去最大のメダル数となりました。東日本大震災で話題となった絆も大きな力になったかも知れません。今回の第30回オリンピック大会には204の国と地域から1万人の選手たちが集まり、多様な人種や成績を超えてそれぞれに体力の限界に挑む人々のドラマがありました。この人類の多様性の証こそオリンピック開催の重要な意義です。ここでは二人のアスリートを取り上げて、整形外科医の立場から少し考察してみたいと思います。

最初は世界最速の男ジャマイカのウサイン・ボルトです。本大会で100mと200m、次いで400mリレーと合わせて3冠を手に入れました。走る前から「俺は伝説を作るためにロンドンに来た」と豪語した男です。短距離はジャマイカ勢が独占したことからも、これらアフリカの人々には走ることに有利な遺伝子が備わっているのかもしれませんが。

しかしボルトには走るために大きな障害となる疾患があります。そのために彼は勝てないという噂が多くありました。即ち子供の頃からの脊柱側弯症です。オリンピックが始まる前のNHKの特集番組で彼の脊柱のX線写真を見ました。確かに胸腰椎側弯があり、腰椎には生理的範囲を超えた病的な前弯症が見られました。そうすると走るときに骨盤が傾斜して不安定な動きをする訳で、腰痛の原因になるし、骨盤周囲筋の疲労を誘発し、特にハムストリングに大きな負担がかかり損傷しやすくなります。実際に彼には腰痛や大腿の肉離れの経験があったようです。これを克服するためにドイツで特別メニューの筋力訓練を受けてきたようです。それがどれほどハードなトレーニングだったか想像することは出来ませんが、その試練を乗り越えて初めて今回の栄冠が彼に輝いた訳です。これがオリンピックの歴史上传説になることは確かでしょう。

もう一人はハンマー投げで銅メダルを獲得した室伏広治です。37歳の彼にとってはアンチエイジングの闘いだっただけとも言えます。30歳を過ぎて体力が衰え始めてから、次々と距離を伸ばして、4年前のアテネ大会で金メダルを取り、北京ではメダルに届かず引退の噂が出たにも拘わらず、アメリカで理学療法士とチームを組んで、衰え行く体力を意識して自分の肉体の状態を冷静に分析しながら、独自の実験を重ねてきました。人間の発達に興味を持ち、科学的研究論文をあさり、世界的権威に指導を仰いだり、赤ん坊の寝返りと起き上がり運動に合理性を認めてトレーニングに取り入れるなど最も理に叶った訓練を実施してきました。結果として加齢の衰えを克服して、37歳にして再びメダルを獲得することが出来ました。彼は高齢化社会に多くの示唆をした「鉄人」と言えるでしょう。

現在、石原都知事を中心に2020年の東京オリンピック招致運動が実施されています。その事務総長に我々のロータリーの同期ガバナー水野正人氏が就任しました。国民の支援を頂いて、再び東京大会が実施され、震災からの復興を全世界にアピールしたいものです。



## 「Value for Money」 —茨城COA 20周年を迎えて—

第4代会長 小松整形外科医院 小松 満

今年のJCOA学会は7月15, 16日に神戸市で1400余名が参加し盛大に開催された。茨城COAからも山崎会長をはじめ荒川、松崎、浦川、平澤、石島（隆）、星、小松と例年に無く大勢参加した。茨城COAは平成16年につくばで開催したが、もはや茨城COAで開催可能なレベルのものではない事を実感させられた。

神戸行きには茨城空港から初めてスカイマークを利用した。スカイマークはLCCではないとのことだがLCC並に大変安かった。われわれ世代にとってLCCといえば先天性股関節脱臼を思い浮かべるが、いまやLow Cost Carrierの時代である。

安かろう悪かろうと思っていたが、スタッフが紺の制服でなくポロシャツを着ている事が異なるくらいで座席はJAL, ANAと比べても遜色無く決して狭くない。

座席のシートポケットに「スカイマーク コンセプト」なるリーフレットが入っていた。マスコミに取り上げられ物議を醸したので撤回したのかと思っていたのだが、文言を幾分柔らかくし「消費生活センター」を削除しただけで内容的には変わっていない。

機内サービスについて従来の航空会社と異なる事を8項目にわたって明記している。荷物は自分で収納すること、客室乗務員に丁寧な言葉使いを義務づけていないこと、機内での苦情は運行に影響が出る可能性がある場合は受け付けないことなどである。

まさに我が意を得たりである。客はなにを要求しても良いというような風潮は、三波春男の「お客様は神様です」が一人歩きして始まった。スカイマーク コンセプトについて「客を不快にしないことも大事な仕事である」などしたり顔でコメントしている輩がいるが、スタッフは選ばれているので一部の客のように非常識な人はいなかった。コンセプトが不快な人は他の航空会社を選べばいいのである。

欧米では「Value for Money」の概念があまねく認識されているとの事である。例え客であろうとも値段相応の要求しかできない事を啓発する必要がある。

昨年生活保護受給者数が200万人を超えた。診療報酬改訂後一般名処方にしたところ、生保あるいは被災患者で自己負担がないからジェネリックでなく先発品にしてくれという患者が少なからずいると薬局から知らされた。日本人はここまで墜ちてしまったのかと愕然とさせられた。支払基金によると2011年の1件あたり確定金額は医療保険が13,740円、生活保護39,180円と生活保護が3倍であった。生活保護患者の責任が大で有ることはもちろんだが、医療機関も真摯に反省しなければならない。大阪市で調査したら市内の医療機関のうち34カ所は全員が生保患者だった。まさにunbelievableである。

WMA（世界医師会）医の倫理マニュアルでは、たとえ患者からの求めであって

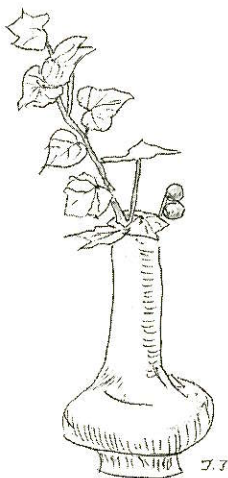
も、無駄で効果のない治療は断るべきであると述べている。患者のいいなりになってはいけない。

医療を必要とする人が受診抑制する危険性もあるが、やはり幾ばくかの個人負担を導入する必要があるのではないだろうか。数年前、参照価格制度の導入が提唱されたときに私は反対した。だが、このように日本人の倫理観が低下した今や、参照価格制度の導入もやむ無しと考えざるを得ない。

2010年ロイター通信は医療制度に関する満足度調査で「日本、医療の満足度は15% 22カ国で最低レベル」と報じた。英国では55%が満足と答えているが、「患者を乗せた何台もの救急車が、病院の前で何時間も待っている」ような状況でも value for money の概念が作用しているのだろう。

日本人の不満のトップは3時間待ちの3分診療に代表される待ち時間である。3時間待ち3分診療は、「いつでも どこでも だれでも」という制度の負の効果であることを認識しなければならない。医師会が圧力団体として「いつでも どこでも だれでも」という世界に冠たる日本の医療制度を守ってきたことが真逆な意識を国民に植え付けてしまったのである。

医師は国民に日本の医療制度が如何に公平で他国に優れる制度であることを説明し、国民が医療者とともに国民皆保険制度を守らなければならないかを理解させなければならない。メディアも医師たたきに専念せずに他国の医療状況を正しく国民に知らせる責任がある。



2012  
7.25



## 「どんなもんじゃい」 —祝辞に代えて—

茨城県医療法人協会長 恵愛小林クリニック 小林 克巳

茨城県臨床整形外科医会創立20周年との事、おめでとうございます。

歴代会長、山崎雄一郎会長を先頭に、茨城県の整形医会を長い間リードして来た事に、深く敬意を表します。我々、県医療法人協会にも参加して頂いています事にも感謝いたします。

少しお世辞も入りますが、整形外科の先生方には名医と言われる方が多いように思います。これは、基本的には人間の基本構造である骨格・筋肉を矯正する、治すという極めて名人芸を要する仕事であるからと思います。

外科の人間は、消化管にしても、脳にしても、循環器にしても、おおざっぱに正常位に合わせておけば（但し、洩れないように）自然に癒合するという感覚がありますが、整形の先生方は骨を曲がって治すと後日文句を言われるから名人芸を求められてしまいますね。

さて、今回は自由なテーマでという原稿依頼ですので、少し脱線気味ですが、心のままにペンを走らせてみようと思います。

関西のボクシング界に亀田三兄弟がいて、活躍している事はご存知だと思います。あの次男だったか、勝つとリングのロープに昇って、「どんなもんじゃい」と大声で強さを誇示しています。批判の声もあるようですが、私はあれ、好きですね！ゴルフで長いパットを決めた時なんかやってみたいですね。「どんなもんじゃい」と。しかし、なかなか出来ない。皆さんも是非やってみてください。手術でピタッと骨が接いた時なんか「どんなもんじゃい」と。周りのスタッフに尊敬されますよ。「明るい先生だ」なんてね。

しかし、人間はほとんど「どんなもんじゃい」で生きているんですね。格好のいい車に乗っている人は、「格好いだろう、馬鹿野郎が、どんなもんじゃい」と言いたいんですよ。美人の奥さんを持っている人は、「美人だろう、お前の母ちゃんはブスだろうが！どんなもんじゃい」と言いたいんですよ。胸にバッチを着けている人なんかは、なるべく目立つ様に着けています。「このバッチは弁護士のバッチだよ、どんなもんじゃい」と言いたい。会話の相手がそのバッチを見て、「何のバッチですか？」と聞いてくれれば、しめたものだが、なかなか気付いてくれない。こう言う人は、会話が始まって5分以内が勝負なのだ。何とかバッチの話にもっていかうとします。5分以内に相手が気付かない時は、「実はね、このバッチはね・・・」と始まります。「この時計は100万するんだ、どんなもんじゃい」「このバックはヴィトンのバックだ、どんなもんじゃい」「このコートはシャネルだかんね、どんなもんじゃい」そう言ってシャネルのマークを見える様にフロントに預けたりする。「あら、シャネルじゃないですか？」とフロント嬢が嬌声を揚げたりすると満足して、「いや～安物だよ、寝巻き代わりでね～」なんて鼻高々。マークに気付かないフロ

ント嬢だったりすると、ムカツとくる。「あの娘は気が利かないから、やめさせたら！」なんて支配人に言ったりする。この世の中は「どんなもんじゃい」のかたまりなんです。

ところが、皆そうは言わない、心の中では思っても、少し自慢げに鼻をピクピクさせたり、ニタッと笑ったり、僕にとって、この位は当たり前なんだかね！というような顔をしたりする程度なんです。暗いね～！「思い切って、どんなもんじゃい」と言ってごらん下さい。あなたは、微笑と賞賛に囲まれる事を私が保証します。

あの亀田の次男、勝つと歌を歌う、これもいいね。感情ムキ出しで！それに比べ、医者には感情を出さない人が多い。長いパットなど入れてもせいぜいニヤッとする程度、ガッツポーズをとる医者を見た事が無い。「武士は三年に片頬」と言う言葉がある。三年に一度ニヤッと片頬だけ笑う。満面の笑みなどもっての外！！「どんなもんじゃい」なんて絶対に言わない。そうすれば威厳を保たれるというわけです。

感情を出すという意味では、昔の歌は今の歌より感情が出ていていいですね。10年位前か、伊東ゆかりと言う歌手がいた。

～小指の思い出～

あなたが噛んだ小指が痛い 昨日の夜の小指が痛い

あなたが噛んだ小指がもえる 一人でいると小指がもえる

いいね、しっとりしていて！！でも、親指では駄目なの??人差指では駄目なの??親指はパチンコの時だって、物を書く時だって、一生懸命働いているよ。小指なんか、全然働いていないよ。どうして、小指ばかり注目されるの?親指だって噛んでもらってもいいんじゃない?あなたが噛んだ親指が痛いでもいいんじゃない?親指をからませたっていいんじゃない?駄目だって!!それって不公平でしょ!?

とかくこの世は不公平な事ばかりだけど、我々の体だって不公平な所が多いよ。手の甲と、手の平では、平は陽性で甲は陰性なんていわれている。幽霊なんか必ず、手の甲を上にして出てくる。手の平を上にして見せるとほとんど幽霊じゃなくなっちゃう。

歯なんか、下の歯ばかり働いていて、上の歯はどかかと腰を据えているだけ、笑顔で見せるのは上の歯ばかり、下の歯を見せて喜ぶ人はいない、これって不公平でしょ?私は時々上の歯も働かせようと思って、下の歯を休ませていたんだけど、結局下の歯が働いてしまう。さしあたり、上はブルジョア、下は労働者ですね。

小指だってちっとも働かないのに、可愛がってもらってばかり!!ところで小指って燃えるのかね?

～恋のしずく～

肩をぬらす恋のしずく 濡れたままでいいの このまま歩きたい

いいね、いいね、いいんでないの!!

ところで恋にしずくってあるの? どんな色なの? 漿液性なの? 粘液性なの?

～恋の奴隷～ 奥村チヨ

あなたに逢ったその日から 恋の奴隷となりました  
あなたの腕にからみつく 子犬のように  
悪い時には どうぞぶってね あなた好みの女になりたい  
いいね、いいね。こういう女の好きだね! 「どうぞぶってね」と言うからぶつ  
たら反対に殴られたりして!!

私は何を書いているんでしょうね。 まあいいか。

今後は感情を表に出して、手術成功した時には「どんなもんじゃい」と吠えてく  
ださい。

とりあえず、20周年記念おめでとうございます。



# 最近の活動

JCOA 学会 in つくば

学術研修会

資格継続のためのセラピスト研修会

OYAJI会

## JCOA 学会 in つくば

山崎雄一郎

平成16年6月12日(土)13日(日)の二日間つくば国際会議場を中心として、第17回日本臨床整形外科学会が開かれた。当時の会長は大木先生であり、この学会を引き受けてから実行委員会が作られた、実行委員長には小松先生が就任して、活発に活動が始まった。

この学会開催のために何度も会議を行った。これまで、県南と県北の会員間ではそれほど交流がなかったが、この会議によって、会員間の連携がより緊密になったと感じたのは私だけではないと思う。

プログラムは別表の通りであるが、我々は午前中からつくば国際会議場に集合した。12日午後からは産業医研修として「宇宙航空研究開発機構(筑波宇宙センター)」見学会が開催された。わたしは、総合受け付け責任者であり、会場準備のため残念ながら参加できなかった。午後4時から、臨時総会の後、丹羽雄哉元厚生大臣の「高齢国家私の社会保障論」の特別講演が行われた、その後、場所をホテルグランド東雲に移して大懇親会が開かれました。

13日は学会本番である。教育講演は宇宙航空研究開発機構の大島博先生による「宇宙旅行と骨粗鬆症」で、大変興味深いお話しであった。また、パネルディスカッションは「整形外科領域の神経ブロック療法」と「頚椎損傷(頚椎捻挫を中心に)」の2つがあり、ともに熱の入った議論があった。一般演題は10題でした。

最近のJCOA学会の隆盛ぶり、拡大傾向を見ていると、わずか8年前の茨城JCOA学会の何とシンプルであったことが感じられます。あの当時はつくばエクスプレスも開通していない時期で不便なつくばに多くの方に来て頂いて感激しました。結局、参加者は355名(会員300名、同伴者31名、その他24名)でした。

学会が終わった後は、燃え尽きような感慨がありました。当分は茨城に学会の担当は来ないと思いますが、こうやって振り返ってみると、今の規模の学会を茨城で開催するのは改めて大変だと感じました。

## 茨城県臨床整形外科医会学術部の活動報告

・・・ 研修会・骨と関節の日（運動器の月間）の活動について・・・

五味 文雄

### 1. 平成 23 年度学術研修会

#### 学術講演会 1

日時：平成 23 年 5 月 21 日（土）18：00～

場所：水戸プラザホテル

##### 演題 1 「一步踏み込んだ痛みの診療」

大阪大学大学院医学系研究科疼痛医学寄附講座 教授

柴田 政彦先生

##### 演題 2 「～慢性腰痛にたいする薬物治療～」

今後 期待されうる薬剤の使用、オピオイドの使用経験を含めて」

富山大学医学部整形外科学 准教授

川口 喜治先生

#### 学術講演会 2

日時：平成 23 年 6 月 18 日（土）18：00～

場所：水戸京成ホテル

##### 演題 1 「新しい骨粗鬆症治療薬とその作用機序」

東京大学大学院医学研究科 整形外科学 准教授

田中 栄先生

##### 演題 2 「足関節・足部疾患に対する最少侵襲手術」

～日常生活やスポーツへの早期復帰をめざして～

帝京大学医学部整形外科学 講座兼担教授

高尾 昌人先生

#### 学術講演会 3

日時：平成 23 年 9 月 29 日（土）19：00～

場所：水戸プラザホテル

##### 演題 1 「骨折予防と骨粗鬆症早期治療の重要性」

東京都リハビリテーション病院 院長

林 泰史先生

## 演題 2 「日常診療における生活習慣病と骨粗鬆症の接点」

虎ノ門病院 内分泌センター部長

竹内 靖博先生

## 学術講演会 4

日時：平成 23 年 10 月 13 日（木）20：00～

場所：ホテルグランド東雲

## 演題 「骨折リスク評価と薬物療法開始の目安」

独立行政法人 国立長寿医療研究センター病院 臨床研究推進部長

細井 孝之先生

## 学術講演会 5

日時：平成 23 年 10 月 20 日（木）19：00～

場所：水戸プラザホテル

## 演題 1 「当院におけるリリカの使用の経験」

水戸済生会総合病院 整形外科 部長

野村 真船先生

## 演題 2 「脊椎疾患における疼痛治療～神経障害性疼痛を中心に～」

東京大学大学院医学研究科 整形外科学 講師

竹下 克志先生

## 学術講演会 6

日時：平成 23 年 11 月 17 日（木）19：00～

場所：水戸プラザホテル

## 演題 1 「日常診療における骨折リスクの捉え方とその管理」

独立行政法人 国立長寿医療研究センター病院 臨床研究推進部長

細井 孝之先生

## 演題 2 「骨粗鬆症治療の現況と今後

ーテーラーメイド時代を迎えてー」

産業医科大学 整形外科 教授

中村 利孝先生

## 学術講演会 7

日時：平成 24 年 1 月 28 日（土）18：30～

場所：三の丸ホテル

演題 1 「NSAID 潰瘍の実態と予防戦略」

独協医科大学 消化器内科 教授

平石 秀幸先生

演題 2 「整形外科疼痛疾患の診断と治療—最近の知見」

千葉大学医学部 整形外科 助教

大鳥 精司先生

学術講演会 8

日時：平成 24 年 2 月 2 日（木）19：30～

場所：三の丸ホテル

演題 「骨形成促進剤のポジショニング—具体的な症例を含めて」

東京女子医科大学 講師

金谷 幸一先生

学術講演会 9

日時：平成 24 年 2 月 16 日（木）19：10～

場所：水戸プラザホテル

演題 1 「RA 治療の変遷」

水戸赤十字病院 第二内科 部長

坂内 通宏先生

演題 2 「変形性股関節症の治療」

新潟県立新発田病院 副院長

堂前 洋一郎先生

学術講演会 10

日時：平成 24 年 3 月 15 日（木）19：00～

場所：水戸プラザホテル

演題 1 「スポーツ外傷に伴う軟骨損傷の診断と治療」

帝京大学千葉総合医療センター 整形外科 准教授

渡辺 淳也先生

演題 2 「手の外科領域における骨折治療の問題点について」

新潟手の外科研究所 所長

坪川 直人先生



## II. 骨と関節の日（運動器の月間）の活動

日時：平成23年10月23日（日） 13：30～16：00

場所：茨城県産業会館

テーマ：ロコモティブシンドロームと変形性膝関節症

講演会 14：00～14：40 「変形性膝関節症の病態と治療」

小松整形外科 副院長 星 忠行先生

14：40～15：00 シルバー体操

介護老人施設カーサビアンしろさと 理学療法士

渡邊 勸先生

医療相談 15：10～16：00

骨量測定 13：30～14：00 15：10～16：00

## 平成24年度学術研修会（予定含む）

### 学術講演会1

日時：平成24年5月12日（土）

場所：水戸京成ホテル

演題1 「代表的な小児整形外科疾患の診断と治療」

東京大学大学院 リハビリテーション医学研究科 教授

芳賀 信彦 先生

演題2 「骨粗鬆症診療の新しいガイドラインと薬物治療の実際」

杏林大学 整形外科 教授

市村 正一 先生

### 学術講演会2

日時：平成24年6月28日（木）19：00～

場所：水戸プラザホテル

演題 「腰部脊柱管狭窄症－概念の成立からガイドラインまで」

千葉大学大学院医学研究院整形外科学 教授

高橋 和久 先生

学術講演会 3

日時：平成 24 年 7 月 12 日（木）19：00～

場所：水戸プラザホテル

演題 1 「整形外科領域の疼痛疾患に対する薬物療法～オピオイドを中心に～」

独協医科大学 麻酔科学講座 教授

濱口 眞輔 先生

演題 2 「運動器疾患における鍼治療を応用した

神経ブロックとトリガーポイント注射」

山田整形外科病院 副院長

小林 則之 先生

学術講演会 4

日時：平成 24 年 9 月 13 日（木）19：00～

場所：水戸三の丸ホテル

演題 1 「薬剤起因性消化管粘膜障害」

自治医科大学 消化器内科 講師

大澤 博之 先生

演題 2 「発達性股関節形成不全の診断と治療－装具療法と手術療法のコツー」

鳥取大学医学部 整形外科 准教授

岡野 徹 先生

学術講演会 5

日時：平成 24 年 10 月 25 日（木）19：00～

場所：水戸プラザホテル

演題 1 「変わりつつある医師主導臨床研究～腰部脊柱管狭窄症研究を題材に～」

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター

総合病院 水戸協同病院 整形外科 講師

馬見塚 尚孝 先生

演題 2 「高齢者骨折をいかに防ぐか？～新しいガイドラインの話題から～」

鳥取大学医学部 保健学科 教授

萩野 浩 先生

学術講演会 6

日時：平成 24 年 10 月 25 日（木）19：00～

場所：水戸京成ホテル

## 演題 1 「整形外科と医療類似行為」

取手整形外科医院 院長

松崎 信夫 先生

## 演題 2 「完璧な人工股関節手術を目指して」

－脚長とオフセット再建の重要性－

龍ヶ崎済生会病院 整形外科 部長

河村 春夫 先生

## 学術講演会 7

日時：平成 24 年 11 月 15 日（木）19：15～

場所：ホテルグランド東雲

## 演題 1 「腰痛診断、治療の今後の展望」

千葉大学大学院医学研究院 整形外科 助教

大鳥 精司 先生

## 演題 2 「臨床現場における骨折高リスク症例の診断と治療

～今、目の前にいる患者をどう診るか？～」

帝京大学ちば総合医療センター 第三内科 教授

岡崎 亮 先生

## 学術講演会 8

日時：平成 25 年 2 月 21 日（木）

場所：水戸プラザホテル

## 演題 「週 1 回テリパラチド製剤の基礎と臨床－骨形態計測学的観点から－」

新潟中央病院 リハビリテーションセンター長

井上 旬二 先生

## 学術講演会 9

日時：平成 25 年 3 月 14 日（木）

場所：水戸プラザホテル

## II. 骨と関節の日（運動器の月間）の活動

＜テーマ：ロコモティブシンドロームの要因としての骨折の予防と治療＞

## 【水戸会場】

日時：平成 24 年 10 月 14 日（日）13：30～16：00

場所：茨城県立健康プラザ

講演会

演題：「骨は生きている！」

講師：茨城県立中央病院 整形外科 部長

林 宏 先生

シルバー体操

指導：石塚地方病院 リハビリテーション科長

管野 総一郎 先生

医療相談・骨量測定

【つくば会場】

日時：平成24年10月14日（日）14：00～15：30

場所：つくば国際会議場

講演会

演題：「高齢者の骨折の予防と治療」

講師：筑波学園病院 副院長

原田 繁 先生

ロコモ体操

指導：筑波学園病院 リハビリテーション科

下村 哲志 先生

## 資格継続のためのセラピスト研修会

茨城COAでは運動器リハビリテーションの発足に伴い、会員の要望を受け、平成21年よりみなしPTの維持に必要な資格継続のためのセラピスト研修会を開催しています。これまでは茨城県医師会館で会員の有志を講師にお願いし、3回開催しています。近隣の（他県）JCOA会員の先生方の職員を含め100人弱の参加者で開催してまいりました。これまでの内容は下記に示すとうりですが、今年も水戸協同病院の講堂を利用させていただき、11月18日に予定しております。整形外科専門医資格の維持と合わせ、できるだけ県内で色々な資格継続の研修会が催されるよう会員一同で頑張っております。

各先生方には 講師の依頼が届きました折には宜しくお願い申し上げます。

### 資格継続のためのセラピスト研修会

#### 【第1回】

日時：平成21年1月25日

場所：茨城県医師会館

講義1	運動器リハビリテーションについて	小松	満
講義2	運動のしくみ	荒川	重光
講義3	下肢のリハビリテーション	渡邊	行彦
講義4	物理療法の実施法および適応の禁忌	池田	勝

#### 【第2回】

日時：平成21年11月8日

場所：茨城県医師会館

講義1	上肢のリハビリテーション	嶋崎	直哉
講義2	脊椎のリハビリテーション	松岡	正裕
講義3	運動器不安定症とリハビリテーション	中村	尚
講義4	物理療法の原理・指導法と禁忌	小松	満

【第3回】

日時：平成23年11月20日

場所：茨城県医師会館

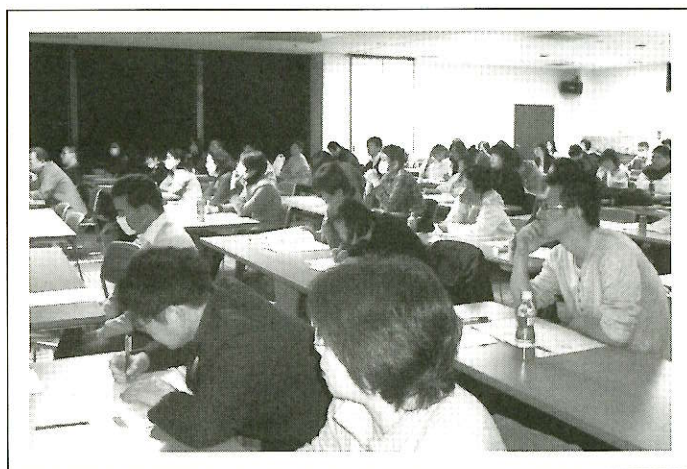
講義1	運動器のしくみ	木村	郁夫
講義2	下肢のリハビリテーション	石島	隆弘
講義3	上肢のリハビリテーション	山崎	雄一郎
講義4	運動器不安定症と転倒予防	荒川	重光

【第4回】

日時：平成24年11月18日実施予定

場所：水戸協同病院研修講堂

講義1	医療安全対策とリハビリテーション	荒川	重光
講義2	大腿骨頸部骨折とリハビリテーション	林	健人
講義3	アスレチックリハビリテーション	井元	政義
講義4	脊椎疾患とリハビリテーション	伊藤	公一



## ゴルフ会の20年

会員親睦部会長 吉成 尚

昭和49年4月6日、日本臨床整形外科医会（JCOA）が設立されました。昭和50年代頃は、茨城県は約50名の方が個人会員としてJCOAに参加され、ゴルフ会も年2回程度仲間内で行われていたようです。

平成3年11月18日、茨城県がJCOAの団体県として正式に加盟し、これを機に、第1回茨城県臨床整形外科医会のゴルフ会が平成4年9月6日、グランドスラムCCにおいて石島弘之先生の呼びかけで開催されました。優勝者は大木勲先生でした。その後も年二回、春と秋に毎回3～4組で開催され、平成11年5月23日、第13回大会は大洗ゴルフ倶楽部で開催され。参加者は26名に及びました。優勝者は滝田孝博先生でした。そして、平成16年10月31日第23回大会をもって13年続いたゴルフ会が途絶えました。

第4代小松会長の呼びかけで、会員間の親睦を目的に5年ぶりにゴルフ会がOYAJI会の名の下に復活し、OYAJI会として第1回大会が平成21年9月27日笠間東洋ゴルフ倶楽部にて開催されました。優勝者は渡邊行彦先生でした。その後、年2回、春と秋に笠間東洋ゴルフ倶楽部にて開催され、平成24年3月25日、第5回まで続いています。優勝者は廣瀬廣先生です。この間、平成23年3月11日の東日本大震災のため予定していた春の第4回大会は、クラブハウス天井崩落もあり、その年の秋に延期されました。この際には、JCOAから見舞金など温かいご支援を賜りましたこと大変感謝しております。

OYAJI会として約3年半が過ぎ、この間参加者は22名となりました。最近の整形外科医（殊に開業医）の取り巻く環境は、維持期リハ継続問題など、日々厳しさを増し、外に目をやれば、医療と介護の連携、在宅医療、看取り問題、地域包括ケア、TPP問題があります。正に21世紀型医療が問われています。この時期だからこそ、同じ釜の飯を食う会員同士の親睦を深め、情報交換し、アイデアを出し合って助け合おうではありませんか。個人主義ではいけない気がします。

責任と友情のある会員として、まだ一度も参加されていない方々のOYAJI会へのご参加を心より待ち望んでいます。

## ●第1回 OYAJI会 平成21年9月27日 参加者12名(氏名は敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HDC	ネット
優勝	渡邊 行彦	39	44	83	10.8	72.2
準優勝	小野瀬 好良	43	44	87	14.4	72.6
3位	松永 彦二	41	42	83	9.6	73.4
4位	林 龍生	39	40	79	4.8	74.2
5位	吉成 尚	46	44	90	15.6	74.4
	浦川 圭二	50	46	96	21.6	74.4
7位	金子 正剛	44	43	87	9.6	77.4
8位	小松崎 睦	42	47	89	10.8	78.2
9位	山崎 雄一郎	54	52	106	27.6	78.4
10位	池田 勝	46	54	100	20.4	79.6
11位	廣瀬 秀史	51	51	102	21.6	80.4
12位	阿久津 貴	51	54	105	20.4	84.6

## ●第2回 OYAJI会 平成22年3月28日 参加者12名(氏名は敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HDC	ネット
優勝	松永 彦二	40	43	83	10.8	72.2
準優勝	林 龍生	42	41	83	9.6	73.4
3位	吉成 尚	44	43	87	13.2	73.8
4位	阿久津 貴	47	44	91	16.8	74.2
5位	山崎 雄一郎	49	48	97	22.8	74.2
6位	金子 正剛	47	43	90	15.6	74.4
7位	小松崎 睦	46	49	95	19.2	75.8
8位	池田 勝	59	53	112	36.0	76.0
9位	小野瀬 好良	50	49	99	21.6	77.4
10位	鴫田 典夫	48	49	97	19.2	77.8
11位	浦川 圭二	50	46	96	18.0	78.0
12位	石島 弘之	56	56	112	27.6	84.4



## ●第3回 OYAJI会 平成22年11月14日 参加者10名(氏名は敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HDC	ネット
優勝	廣瀬 廣	41	37	78	6.0	72.0
準優勝	阿久津 貴	45	50	95	21.6	73.4
3位	小松崎 睦	51	43	94	19.2	74.8
4位	伊藤 公一	41	44	85	9.6	75.4
5位	石井 嗣夫	49	46	95	19.2	75.8
6位	吉成 尚	48	47	95	19.2	75.8
7位	小野瀬 好良	44	46	90	13.2	76.8
8位	池田 勝	49	50	99	21.6	77.4
9位	原 洋二	40	46	86	7.2	78.8
10位	平澤 直之	63	63	126	34.8	91.2

## ●第4回 OYAJI会 平成23年10月16日 参加者14名(氏名は敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HDC	ネット
優勝	吉成 尚	39	48	87	16.8	70.2
準優勝	林 龍生	38	38	76	4.8	71.2
3位	松永 彦二	40	39	79	6.0	73.0
4位	小松崎 睦	46	44	90	15.6	74.4
5位	伊藤 公一	43	44	87	12.0	75.0
6位	石井 嗣夫	41	44	85	9.6	75.4
7位	小野瀬 好良	44	43	87	10.8	76.2
8位	石島 弘之	49	42	91	14.4	76.6
9位	阿久津 貴	48	46	94	16.8	77.2
10位	浦川 圭二	51	52	103	25.2	77.8
11位	山崎 雄一郎	54	52	106	27.6	78.4
12位	池田 勝	50	52	102	19.2	82.8
13位	荒川 重光	53	67	120	31.2	88.8
14位	平澤 直之	62	69	131	36.0	95.0

## ●第5回 OYAJI会 平成24年3月25日 参加者10名 (氏名は敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HDC	ネット
優勝	廣瀬 廣	43	44	87	16.8	70.2
準優勝	小野瀬 好良	44	45	89	16.8	72.2
3位	松永 彦二	44	46	90	16.8	73.2
4位	伊藤 公一	43	44	87	13.2	73.8
5位	木村 郁夫	40	46	86	10.8	75.2
6位	石島 弘之	43	48	91	15.6	75.4
7位	外間 道雄	46	50	96	20.4	75.6
8位	吉成 尚	56	46	102	21.6	80.4
9位	小松崎 睦	46	54	100	19.2	80.8
10位	平澤 直之	78	67	145	36.0	109.0



第4回 OYAJI会 平成23年10月16日

於：笠間東洋ゴルフ倶楽部

# 創立 20 周年に想う

## あっという間の20年

三枝整形外科医院

三枝 憲成

茨城COAもあっという間に20年がたち、その間年々進化して、JCOA学会を担当できるほど成長してきましたが、これも歴代の会長とその側近ならびに会員各位の協力の賜物と思います。

このたびはまた盛大に20周年記念の式典を成功裏に行うことができました。文化講演も良かったですが、ふだんは見られない会員のアトラクションも見られ、この先生こんなことやるんだっていう感じで親しみを感じました。こういうイベントは企画するのは大変だと思いますが、会員同志の接触ができ、一体感が生まれて意義あるものと思いました。

また、学術委員会の一員としての立場からは、日整会の専門医資格を継続できるよう、幅広く演題を選択して整形外科全般にまんべんなく知識がえられるように、チーフが中心となって考慮しておりますが、会員の皆様からも研修会で聴いてみたい演題がありましたら、お寄せいただければ幸いです。そしてより多くの先生方に参加していただければ、演者の先生にも喜んでいただけるものと思います。



## 医療・医師・家庭

勝田病院 浦川 圭二

『心にのこる医療』を何気無く読んでいて思うのだが、朝から晩まで患者さんのところにいて、良い医者と呼んでいる医師達と同じようになろうとしていた自分がいた。夫として、父親として、どうなんだろう？自分の妻や子供達にとっていい夫、いい父親だったのだろうか？朝早く病院に出かけて、夜まで帰って来ない、夜中に電話があればまた、出て行く。日曜日でもポケベル（まだ携帯電話は、無かった）で呼ばれば、家族と外食中でさえいってしまう。勉強会と言う名前の飲み会やゴルフもある。子供達とあまり遊んで無かった！最近、家の整理をしていて、古いアルバムを見ていたらまるで、母子家庭の様だった。自分の写っている写真の少ないこと！自分の知らない人（子供達の友人）のたくさんいること！悲しくなった。

自分の父親も医者だった！父親と遊んだ記憶は無い。授業参観日は、小学校、中学校を通じて、一度だけど来てくれて、嬉しかったことを覚えている。さて、自分は、授業参観日はどうしてたろう？一回くらい行った記憶はあるが、あまり誇れたものじゃない。自分の子供達が、医者になることをあまり勧められなかったのはこんな自分に後ろめたさがあったのかもしれない。

休み無く一生懸命働いて、何かあればクレームつけられる。我々を守ってくれるはずの法律でさえ、いつでも、どこでも患者が来れば、診療しなさいと言う。昼間は仕事で来院出来なかった、元気なおぼちゃんの明日でも良さそうな症状の風邪でも、昼間はパチンコにいて沢山タバコを吸って夜に、喘息発作を起こして苦しいと堂々と救急車をタクシー代わりに使ってくる生活保護のおっちゃんを、優しく治療しろ！お前ら、聖職者なんだから、労働基準法なんか無い。勉強中の医者なんだから、患者がきたら二十四時間診療しなさい！という。前日の夜寝ないで夜間救急を診てその日は普通に働いている。僕らだって、疲れるし、眠くもなる、でも、すこしでも良くしようと治療している。悪くしようと思っている医療者なんかいない。

後期高齢者や消費税の問題で医療者をイジメておきながら、過疎地に、二十四時間働く医者が少ないといったって誰がなりたがりますか？高い志ざしで過疎地の医療をささえたいと頑張って医者になり働いてみたが、みとめられず、バーンアウトして、疲れ切って、辞めた人を何人もみている。みんなが遊んでいる時も勉強しなければ、医者にはなれません。辛いことも、明日があるから、頑張れるのです。明日に希望のある医療でなければ、崩壊してしまいます。心にのこる医療の選考する人達は、そんな裏側が、ある事を知っているのだろうか？

若い先生達の医療者としての責任感、使命感に頼っているような、医療では、その裏で泣いている家族がいることがわからないようでは、日本の医療に明日は無いのかもしれない。でも、そうすると心のない医療になってしまいそうだ。そう言えば、スポンサーはアメリカの保険会社だった、医療がアメリカみたいになってしまって、お金がものを言うサービスに成り下がる。日本人らしい礼儀作法、義理と人情が失なわれてしまったのかなあ！

## 茨城COAと共に

木村クリニック 木村郁夫

茨城COA 20周年おめでとうございます。

またこの間の歴代の会長先生方、並びに役員の方、また事務方のみなさんには多大なご苦勞があったと思われまゝ。今まで何かとお世話になり、ありがとうございました。また今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて茨城COA 20周年ですが、実は当院も、この7月で開院20年になり、茨城COAと同じような時代を過ごしてきたと思うと、感慨深いものがあります。10年ひと昔といいますが、20年では、はやふた昔になりました。

また高度情報化社会や、移動にかかる時間の短縮などで、自分として感じる時間の流れが以前より短く、早く感じられるようになりました。つまりは光陰矢のごとしというか、飛ぶように月日が過ぎてしまい、時間に追いまわられている。それで20年というふた昔は、はるかかなたの太古の昔のように思われる次第です。(これは記憶力の低下で、思い出せないという側面も否定できませんが)

そこで私の茨城COAの記憶ですが、いつどんなきっかけで入会していたのかは、はっきりとした記憶がありません。ただ思い起こされるのは、昔ゴルフ大会(大洗や、下館アジアなどいろいろなところで開催されたと思いますが)があり、プレーした記憶はあります。

この当時のゴルフ大会は、諸先輩方がいらっしゃいましたが、とても楽しい会だった記憶があります。ラウンド中も気さくな先生方ばかりで、また最後の懇親会も、いわゆる医師会などのなかなか終わらず、講評が長々と続くという感じはなく、各先生皆さんあっさりとしたもので、簡単に表彰式をしてハイ終わり、解散という感じで、気楽に出席できる会でした。

このように当初、茨城COAとの関連は、ゴルフ程度でしたが、そのうちいつしかゴルフも下火になり、いつの間にかその会も解消となったようで(ゴルフ会は現在、各先生のご尽力により「OYAJI会」として復活しており、参加者大募集中というところではありますが)、私としてはほとんど茨城COAの活動はしていません。もっぱら専門医の単位の講習会などに聞きに行く程度でした。(最近セラピストの講習会で、茨城COAにお世話になる事の方が大事になってきている感があります)

そして時の過ぎゆくままにといふか何とか整形外科(内科その他も含む)開業医として、外来診療を行ってききましたが、田舎において一人でやっており、医学、医療等について、心配な場面も多々ありました。

しかし10年ほど前よりJCOAとして、メーリングリストが始まり、全国の先生方からの、医学、医療、一般教養に至るまでの色々な情報が受け取れ、院内にいながら、色々勉強になりました。

また最近の私自身の実際の茨城COA活動としては、数年前からは役員を拝命し、茨城COA 20周年記念式典実行委員にもなりまして、つくばより水戸まで出かける機会が増え、諸先生方と実際にお会いする機会が多くなりました。それで単に整形外科の分野に留まらず、他科の事や医師会活動、その他社会生活一般についても、いわゆる耳学問として、実際に会って話して、教えていただき、診療などにとっても役立っております。(昨今の医療情勢では、顔を突き合わせれば伝えられる事もあがるが、文字としては残せないような微妙な問題も・・・)

この様にいわゆるICT (Information and Communication Technology 情報通信技術ということが多くなっただけ) を使ったJCOAメーリングリストの情報もとても大事ですが、特に人と人が実際に関わり合いを持つ会合、学会などを通じた茨城COAとしての活動が、私たち整形外科開業医にとっては、医学、医療の知識や技術の向上のため、また日常生活の一助としても、非常に重要な役割担っていると思います。

私としても茨城COAの活動に、今後も何かと参加して行こうと思っております。そして会員諸先生方の参加、活動により茨城COAがますます隆盛となり、30周年、40周年と時を積み重ね、それに伴って私たち整形外科医が、各個人としても発展していく事を願っております。

## JCOAと私

あくつ整形外科・内科

阿久津 貴

久しぶりに創立10周年記念誌を開いたら若かりし日の自分の写真があった。今よりずっと痩せている。ページをめくると私だけではなく、みんなみんな若い。思わずにやけてしまった。ついこの間入会させていただいたつもりが、もう10年以上前になるとは月日の流れは本当に早いものである。

私の入会のきっかけは尊敬する前土浦市医師会会長の大柘廣伸先生からのご推薦だった。「整形外科開業医で構成される全国組織の医会があるから是非お入りなさい。為になるから」とお教えいただいた。恥かしながらそれまではJCOAの存在を知らなかったのです是非にとお願いして入会させてもらった。それまでなかなか相談できなかった診療報酬のこと、医療器械の選び方、経営のこと、従業員のことでありとあらゆる情報を共有できる会は本当にありがたかった。

当時インターネットを始めたばかりの私にはJCOAのメーリングリストも新鮮だった。北は北海道、南は沖縄、タイやハワイからもメールがきた。ネットを介し日本全国多くの先生方と知り合いになれたことは大きな驚きと喜びであり財産になっている。

2004年のつくばでのJCOA学会もすばらしかった。ホテル東雲での懇親会～家内とあんな華やかなところに行ったのは初めてだった。オークラのラウンジでのメーリングリストのオフ会～北海道から沖縄からわざわざ茨城までたくさんのメル友が来てくれた。国際会議場でのシンポジウム～時間が押してひやひやした。みんな楽しい思い出である。

2009年には親睦委員会の吉成先生・小野瀬先生に誘われてゴルフを再開した。平成6年に開業して15年、勤務医時代にたまに誘われて行ったお遊びゴルフも開業してからはその料金もったいなく、すっかり運動とは縁のない暮らしをしていた。会員親睦のゴルフ会が企画されたのでそれを期に50の手習いを始めた。三日坊主の私だが、今だに週2回の練習場通いは続けている。

とり止めもない思い出話になってしまったが10年後の創立30周年記念誌にも今回のように楽しかった思い出を胸に原稿を書けたらと思っている。



## 編集後記

池田 勝

20年前、拙院は開業2年目でしたがJCOAが発足した事は知りませんでした。小生の場合、当時の情報源は大学の医局だけでした。患者を送るにも地元の情報は皆無で、時には大学にまで行ってもらったりといった状況でした。

そのような手探り状況が数年続いていた頃、結城病院の大木先生からJCOAへのお誘いを頂きました。JCOAへ誘って頂いた御蔭で陸の孤島から脱出する事が出来ました。各種講演会やメーリングリスト、新たに始まったOYAJI会ゴルフコンペ、などを介して多くの先生方と知り合う機会ができ、特に同じ整形外科医同士の間柄か医局にいるような居心地の良さを感じております。

茨城COAの会員も、つい最近まではなかなか100人に至らず、歴代の会長は大変ご苦労されていたようでしたが、今や100の壁も超え20周年を迎える事が出来たことは大変喜ばしい限りです。

本文でもご覧いただけるように新たな山崎新会長のもと20周年祝賀会も無事終了し、茨城臨床整形外科医会の更なる躍進が期待されております。これから30年、40年と歴史を重ねて行くには若い先生方の力が是非とも必要です。若い先生方の積極的な関与を切望しております。

---

茨城県臨床整形外科医会創立20周年記念事業実行委員会

---

実行委員長（会長）	山崎雄一郎
副委員長（副会長）	荒川 重光
	中村 尚
	原田 繁
実行委員	吉成 尚
	木村 郁夫
	阿久津 貴
	小野瀬好良
	渡邊 行彦
	池田 勝
	早船 徳子
	浦川 圭二
事務局	渡邊由美子

---

イラスト

高木 俊男

発行 茨城県臨床整形外科医会  
発行責任者 会長 山崎雄一郎  
発行日 平成24年12月1日  
印刷所 佐藤印刷株式会社